

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人 同仁会	事業所名	阪井カルフル・ド・ルポ
所在地	(〒 642 - 0024) 海南市阪井 1770 番地 1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

看護小規模多機能の特徴として、その人の暮らしに合わせた臨機応変な対応を心掛ける
 利用者の心身がどのような状態であっても、その人らしい生活を維持できるよう支援している
 常に利用者が笑顔で過ごせる雰囲気づくりをする

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 1/19 ~ 1/31	従業者等自己評価 実施人数	(20) 人	※管理者を含む
----------------	-----------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 3 月 30 日	出席人数 (合計)	(6) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (4 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (___ 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (___ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) 書面 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (___ 人) <input type="checkbox"/> その他 (___ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフが理念を理解して、その理念に沿って実践できるよう伝えていく。 ・引き続き個人目標を立案し育成計画を作成し職員が専門性をサービスが提供できるように整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心という、理念がある。 泊りや通いを利用している方に対して生活維持支援を行っている。特に会話を中心に食事・排泄介助、レクリエーション等。 ・一年間の目標を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を掲示していることで殆どの職員が理解できており、その理念に沿ったケアの提供が行えている。 ＊理念という柱があるのでどの職員の方も親切に対応してくれる。(沖見氏) 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの入れ替わりがあっても、新人教育計画を整備し実施する。 ・内部研修・外部研修への積極的な参加と伝達講習により統一した質の高いサービス提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入職して直ぐの職員には新人研修を行っているが、計画立てた育成計画までには至っていない。 ・外部の研修には参加できていない。内部研修には参加できておりサービス提供に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の入れ替わりがあり、新人には看多機サービスの説明を伝えられている。現任職員への質の向上となる教育までには至っていない。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な方の変化に早期に発見でき医療とのスムーズな情報共有のために介護職への医療教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職から介護職に対して、理解しやすく状況の説明をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護と介護の連携もできておりスムーズな情報共有や医療教育もできている。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を見て、地域と関われる機会を持つ。 ・地域の方に健康や介護についての勉強会を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週一回のラジオ体操は継続できている。 ・近々来年度の計画を立てる段階である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との関りは、現在ラジオ体操を行っているだけであるが、コロナ禍で地域の方々も集まれない状態である。集会が開催されれば、もっと地域との関りを深めていきたいと考える。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者および家族の望む暮らしが続けられているか、常に考えながら関わっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族が安心して暮らしていけるように必要な医療処置・看護介護を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その人らしく生活できるように支えられている。 	

			*一年を通して利用者や家族が安心してお任せすることができるので、とても安心しています（沖見氏）
--	--	--	---

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		・理念を殆どの職員が理解できており、その理念に沿ったケアの提供が行えている。	・理念に沿って運営できるよう職員教育（育成計画・外部研修の参加促す）の充実を図る。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	・事業所内や、主治医や薬剤師との情報共有は図れているが、リハビリ職と関わる時間がなく、リハビリ内容の把握が出来ていない。	・利用者及び家族の残存機能の維持回復を重視した計画作成のため介護職・看護職間のアセスメント共有の充実。また、リハビリを実施している利用者の場合はリハ職との連携を深めリハビリ状況の共有を行う。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・以前より全体的に評価が落ちている、厳しくなっている。	・緊急時の対応や起こりうるリスクの想定等、スタッフ間で話し合う機会を持つ。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	・地域住民とはラジオ体操を実施していることで関りを深めていこうとしている。今後、集会など開催できるようになれば地域とコラボしてイベントの参加も考えている。	・運営推進会議に管理者以外のスタッフも参加する。 ・地域の方と関わる機会を作っていく。 ・地域包括ケアシステムについて理解できるよう研修を実施する。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		・その人らしい生活が送れるように支えられている。	・自分たちが関わる事で利用者・その家族が安心して生活できているか評価できる。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			<p>本当にできている。 職員の方は、とても優しく接してくれ親切に対応してくれている(沖見氏)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
							<p>[具体的な状況・取組内容] ・安心して住み馴れた地域、また家族の近くで終末期を迎えられる様に理念を掲げている。</p>
							<p>[具体的な状況・取組内容] 利用者の立場に立ってケアできている。 利用者さんから、ここで居ていたら安心と言ってもらえる。安心して生活出来る様に状態観察を定期的に行っている。</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・<u>個人目標を立案し、目標に沿った研修の組み立ては行っているが、入社した職員にできていない。</u></p> <p>今後育成計画を立て、新人から理解しやすい内容等の作成を行ったうえで教育していく。</p>					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している				○	内部研修が出来ていたら「全くできていない」ではない	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・<u>コロナ感染で外部研修に繋がられていない。</u></p> <p>・<u>法人内の研修はあるが、外の研修は、コロナもあり、土日出勤する事も多く、参加できていない。</u></p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>会議や申し送り等で確保されている。</u> ・ <u>申し送り時や、会議、ケースカンファレンスで行っている。</u> 					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の観点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>運営推進会議には管理者しか参加出来ないが、その後の改善会議で報告している。</u> ・ <u>会議で決定したことを出席したものが伝えられているため、計画にも載せているのでサービスは提供できている。</u> 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得支援制度やストレスチェックなどがあり、気にかけてくれている。 相談があればいつでも時間をとって話を聴いている。 ・休みはきちんと取れている。一人で判断難しい時は、上司にすぐに相談できる。 ・人的環境の整備に努めてくれている。 					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			<p>「できている」でよいのではないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します 	
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス計画書や申し送りなどで利用者の情報が共有されている。 ・ICT を活用し毎朝の申し送りで情報を共有し、毎日連絡事項や申し送りを記入した日誌を誰でも見れるようにしている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○				<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>事故に対して、事故報告を提出し改善方法</u>を話し合っている。 ・対策委員があり、研修等もある ・個人情報保護の徹底。安全確保については利用者一人一人の行動を把握して、常に皆で話し合い対策を決定しているとともに、家族にも伝えている。 					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			順調に進められている	<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>災害対策委員会を中心にマニュアル作成や研修を行っている。</u> ・<u>BCP の初期段階は作られているが、それを掘り下げれていない。</u> 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・本人の意志や家族の意向などをよく聞いている。</p> <p>・登録者は、有料老人ホームの入居者が多くで家族が介護に関わることが少ない。入居していない利用者、家族のアセスメントはケアマネが行う。</p> <p>・夜間の状態や変化を夜勤者から情報を得たり、家族の連絡ファイルの書き込みから帰宅時様子を知る事が出来る。</p>					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・ICTを活用しており介護、看護の両面から情報共有出来、またケア内容等相互に提案して取り組んでいる。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・ケアマネ中心に状況変化が都度変更され目標に向け支援している。</p> <p>・サービス計画書等で作成されている。</p>					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・サービス計画書で作成されている。</p> <p>洗身や、口腔ケア、食事など、できるところは、してもらう内容になっている。</p> <p>・生活の場面でできることをみつけて支援している。</p> <p>・入院等した方は特に ADL 低下がみられるが、皆で積極的支援し向上に繋げている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
<p>〔具体的な状況・取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護計画を作成しており、予測される問題点を具体的に計画立てている。 ・看護と介護が話し合い、状況変化の共有に努めている。予測できることを伝えている。 							
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
<p>〔具体的な状況・取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画書で作成されている。 ・状況変化に伴いエアマットの導入や、車椅子の、交換等、できている。 ・朝の申し送り時状況変化があれば話し合い計画に反映している。ケアマネも常に参加している。 							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
④ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている			○		リハの内容が把握できていないのは何故か	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>申し送りや看護師などから情報や状況が共有されている。</u> ・ <u>主治医や、薬剤師とは、情報を共有できている。リハの先生とは、なかなか話できず、リハ内容の把握ができていない。</u> ・ <u>今後はもっと他職種が話し合いの機会が必要。</u> 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>役割分担表があり、一日の互いの行動を理解している。業務内容に応じた柔軟な役割分担が出来ている。</u> ・ <u>入浴時など身体チェックをした際に早く発見し看護師に処置してもらっている。</u> 					
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>申し送り、ICT 活用、改善会議等で連携が取れている。</u> ・ <u>変化があった時等、ケアカンファレンスを行うようになっているが、なかなかできない。</u> ・ <u>褥瘡などの情報を共有し体交は夜間も継続して行っている。</u> 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など の観点から、情報提供や提案 等を行っている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく説 明し、利用者等の理解を得て いる		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>・理解できる方に対しては説明し納得されている。又理解できない方については家族に説明されている。</u>					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>・家族が行う場合看護師がきちんと説明が 出来ている。</u>					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>・本人や家族の意向などを良く聞いている。</u> <u>・リビングウィルの作成を家族、本人に依頼しサービスに反映させる努力をしている。</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている			○			<p>✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p><u>・ケアマネ中心に話し合いができており皆で共有している。</u></p>					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p><u>・家族さんに、説明は概ねできているが、利用者本人には、難しいことが多い。</u></p> <p>・担当者会議を開催し話し合っている。会議ができない時も連絡し合っている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○			<p>昨年参加できていたのに今年は何故か？ →コロナ禍で全く出向いていけない病棟がある。参加できてもケアマネ1名くらいである。</p>	<p>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる		○			<p>変化があったときはどんな対応をしたか電話をいただけるので家族としては分かりやすい（沖見氏）</p>	<p>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</p> <p>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナースにオンコールすることにより体制が出来ている。 ・主治医の緊急時、連絡先を聞いている。 ・基本体制はできているが、救急搬送することもある。 					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p><u>・地域の方とラジオ体操を行っているが、管理者しか参加できておらず介護職参加や、利用者のためにインフォーマルサービスを利用するまでには至っていない。</u></p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			<p>昨年、掲示板にも貼っているという事であったが、今年は貼っていないのか？ →掲示板にも貼っている</p>	<p>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・改善会議で報告している。 ・必ず記録が回覧されている。</p>					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている			○		<p>コロナ禍のためなかなかそういう機会を作りにくいのではないかと（沖見氏）</p>	<p>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</p> <p>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</p> <p>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ラジオ体操などの取り組みで地域と繋がる活動がされている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○			<p>現状どうか? →外部に 20~25%提供している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」 	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>・ラジオ体操に来てくださる行政や地域の方と課題の共有・相談をしている。</p> <p>・代表者は行っていると思われるが、自身はできていない。</p>					
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			○		<p>自治会とコラボするイベントを増やしていきたい(大岡氏)</p> <p>・太鼓の観覧</p> <p>・セミナー等の企画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えてい
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>・今後企画予定</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							くなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・<u>食事や保清等の面や、安心して生活できるという所、できていると思われる。利用者ごとの計画をたて随時見直している。</u></p>	その人に会った目標を挙げ ていた。(沖見氏)	✓ 「計画目標の達成」について、評価 します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
②	在宅での療養生活の継続に対する安心感			
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・利用者が安心して暮らしているように感じられる。</p> <p>・必要な医療は、提供できている。</p> <p>定期的な往診の看護に付き添ったり急な診察が必要になれば調整したりする。</p>	医療が必要な時、往診に看護師さんが付き添ったり診察が必要になれば調整してもらえることで家族としても安心感が得られる(沖見氏)	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・家族様は安心感を持って看取りを希望されている。</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内(通い・泊まり)での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>